



## ハウセンカの花に、アリがたかっていたのはなぜ

### ハウセンカは、葉のえからみつを出す

ハウセンカの花は、長くのびたくきからのびる、葉のえの根もとにつきます。花には、細長くのびたしっぽのようなものがあり、この根もとにみつが入っています。でも、みつのおいで花にやってきても、みつをなめられる虫は、長いストローのような口をもつガの仲間か、長い舌をもったミツバチ、花のおくまでもぐりこめるアリなどだけです。

ハウセンカは、花以外のくきにも、アリがたくさんきています。なぜでしょうか。

じつは、ハウセンカは、葉のえの部分に、特別な、みつを出すいぼのようなもの(みつ腺)がついています。ハウセンカの花がついているそばの、葉のえの部分のあちこちに、みつの出るこぶがあるため、アリは、そのみつをなめに集まってくるのです。

### みつを出して、アリに花や葉を守ってもらう

たくさんのアリが、ぞろぞろ上り下りしているハウセンカの花の近くには、ほかの虫の幼虫などは、近づけません。そのため、アリは、ハウセンカの花や葉が虫に食われるのを防いでいることになります。ヘチマ、サクラの葉のえ、カラスノエンドウの花やくきのつけ根などにも、みつを出すしかけがあり、アリがよく集まってきます。(監修・中山 周平)

